

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北関東)	◎	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・春の繁忙期を迎える。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・今後2～3か月は好調が維持されるとみている。
	○	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・団体宴会に加え、フリーの少人数客の動きが好調である。
	○	都市型ホテル（支配人）	単価の動き	・前年比では宿泊部門は15%前後、料飲部門で10%前後とどちらも単価を上げられたため、やや良くなっている。
	○	旅行代理店（所長）	来客数の動き	・今月に入り、観光シーズンが到来し、ゴールデンウィークに向けて日本人の来店客も徐々に増えている。また、インバウンドはアジアから欧米にシフトしており、堅調に伸びている。
	○	旅行代理店（従業員）	競争相手の様子	・旅行業界全体をみると増加傾向にある。単価も上がってきている。
	○	タクシー（経営者）	お客様の様子	・月の初めは動きが良かったものの、中旬頃から少し悪くなり、前年同月と比べて5%の増収となっている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・物価高騰の影響を大きく受けて、販売は非常に悪いままである。消費税減税に関心のある客が、このところ増えてきている。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・桜が咲いて、各地のイベントは盛況で少しにぎわいがみられるようだが、一般的には静かである。米価が上がりがりっぱなしで全く下がらないことが話題で、客も皆悩んでいる。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・前年を基準にした売上達成度を3か月前と比較すると、若干良くなっている。新型コロナウイルス感染症発生前の売上状況に似てきているが、国内旅行客の消費額は下がっている。インバウンドの購買力が上がったことに支えられている状況である。
	□	百貨店（店長）	販売量の動き	・全体の売上は前年比マイナスを継続するものの、比較的堅調である。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月後半はゴールデンウィークもあるため、受注がやや減少傾向になっている。
	□	住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・低価格品を扱う食品事業だけは堅調に推移している。物価高で生活必需品以外の購買が弱い。
	□	その他専門店（総務担当）	お客様の様子	・顧客からの問合せが少ない。
	□	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・値上げ続きで、皆が値上げに慣れてきたのではないかとみている。
	□	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	単価の動き	・新年度からの給食事業の新規受託先数は、例年どおりの獲得はできている。ただし、新規受託先でも人材確保が厳しい状況で、既存の受託先担当スタッフの中で応援態勢を組んで対処している。結果として、交通費、宿泊代等の応援費用がかさむこととなり、収益面を更に圧迫している。
	□	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・4月は、グループや団体の来客数は若干増えたものの、宴会客や個人客が少し落ち着いてしまっている。前年からの伸びはない。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・4月は歓送迎会で忘年会時期と同じくらいの動きがあるはずだが、今年は少なく、閑散としている。帰宅時間も早く、深夜の利用客が少ない。
	□	通信会社（社員）	単価の動き	・物価高に伴い、当社サービスへの値下げ要望が増える一方で、サービスに満足して、加入者数は増えている。今後も変わらぬ顧客対応を続ける予定である。
	□	通信会社（営業担当）	単価の動き	・スーパー等の来客数は多いように見受けられるが、物価高騰が続く、低価格志向が強まった結果、店の売上増加には寄与していない。
	□	設計事務所（所長）	来客数の動き	・問合せはきているものの、価格高騰で予算が厳しく、計画が進められない。

□	住宅販売会社 （経営者）	お客様の様子	・最近、事務所関係の問合せは少なく、なかなか成約には至らないが、飲食店関係の店舗への問合せが少し増えてきている。ただし、撤収する店も依然として多い。
□	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	お客様の様子	・緊急性の高い修繕やリフォームは別として、内容や金額的にも小さなリフォーム案件の受注が継続している。
▲	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・諸物価高騰に振り回されている。
▲	百貨店（店長）	単価の動き	・元々の物価高の傾向に加え、株価の乱高下、先行きの不透明感もあいまって、急速に景況感が悪化している。これまでは来客数減少でも客単価が上昇していたが、ここに来て、単価も下がり始め、売上が厳しくなっている。
▲	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・前月に引き続き、食料品の不振が目立っている。特に、デイリー商材は、客単価と商材単価は上昇しているものの、買上点数が減少しており、物価高に伴う生活防衛意識の高まりを実感している。
▲	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・4月中旬になり、新生活や卒業、入学関連の返礼等の需要が落ち着いてからは、来客数が前年比マイナス5%の状況が続いている。目的買いの来店動機で、何か目新しい物を探すといった買物を楽しむ様子は以前ほどみられない。
▲	スーパー（総務担当）	単価の動き	・米価の高騰や各種の値上げにより、購入単価が低下傾向である。
▲	スーパー（商品部担当）	販売量の動き	・物価上昇による節約志向や買い控えなどの影響か、買上点数は前年割れが続いている。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・商材の値上げに伴い、販売点数が減少傾向にある。
▲	衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・4月は暖かくなったこともあるが、桜の開花が精神的に重い心を軽くしてくれたのか、人出は若干良かった。ただし、残念ながら、その後の人出は極端に悪くなっている。
▲	家電量販店（営業担当）	お客様の様子	・米国政権による海外取引の不透明な状況が続き、多数の企業が不安を抱えている。
▲	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・当店は努力を重ねて売上を維持しているが、周囲の同業者や商店等は物価高騰により、客の購買意欲が減少傾向である。
▲	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・道路を通行する車の数が少ない。また、客が動いている様子も少ない。そのため、車の点検、修理等の頻度も落ちている。自動車購入は更に抑制傾向で、全体的にも縮小傾向である。ガソリン等の料金が下がると活性化するとみている。
▲	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・買い控えの状態で、特価品しか売れない。
▲	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	販売量の動き	・仕入価格の高騰が続き、結果的に利益が圧迫されている。人材確保の時期で、人件費削減は難しい。販売量が例年並みだとしても好景気といえるような材料はない。
▲	旅行代理店（営業担当）	来客数の動き	・前年より来客数は減っている。季節変動はあるとみているが、物価高の影響がないともいえない。
▲	通信会社（局長）	単価の動き	・4月の値上げ、今後の国内政治や米国の関税対策に伴う各国の対応、米国の取組等、全てが不透明なため、やや悪くなっている。
▲	通信会社（総務担当）	販売量の動き	・当店の客層は高齢者が多く、生活必需品の値上がりで余裕がなくなっている影響が大きい。一方、比率は少ないものの、30代から50代の客はちゅうちょせずに高価格帯の商材を選んでいる。
▲	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・物価やガソリン価格の高騰のため、レジャー費の抑制につながっている。
▲	ゴルフ場（従業員）	販売量の動き	・オンシーズンに入ったが、予約が最後まで伸び切らず、来場者数、売上ともに、前年を下回ってしまいそうである。

企業 動向 関連 (北関東)	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・米国の関税政策に端を発する世界経済の景気後退をおそれて、儉約ムードが広がっている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・全体的に売買案件が減少している。購入に関しては、住宅ローン金利上昇で買い控えがやや増えている印象がある。売却については5月以降に固定資産税の納付が始まるため、増加が予想されるものの、不確定である。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	来客数の動き	・物価高で、回せるお金が限られている客がかなり多い。電化製品は後回しというのが、現状ではないか。
	×	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前月は前年比98%だったが、今は91%と悪くなっている。不調の商材はエアコン86%、冷蔵庫68%、洗濯機60%、テレビ75%と売上構成比の大きな商材群が全減である。
	×	乗用車販売店（経営者）	それ以外	・米国政権の不安定さから悪くなっている。
	×	一般レストラン（経営者）	それ以外	・同業者の集まりで話を聞いてみると、どこも苦勞している。特に、夜の客引けが早く、2回転せず、夜8時以降は閑古鳥という店が多い。個人経営の居酒屋は苦勞している。
	×	ゴルフ練習場（経営者）	来客数の動き	・物価上昇の影響で、街に客がいない。
	◎	—	—	—
	○	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・価格の割に商材は動いている。
	○	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・取引額、単価、取引先の様子のいずれも、今のところはかなり良い。
	□	食料品製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の多くは原価高騰に非常に苦慮しているが、インバウンドによる人流の活発化で一服している。ただし、基本的な厳しさは相変わらずである。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・大きな変動もなく、稼働している。
	□	輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・主要取引先の受注量が変わらずに推移している。
	□	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・夏物家電、エアコン、扇風機、レジャー、バーベキュー用品等の物量は前年並みを確保している。このところ地震等も続いており、自治体や個人向けの防災バッグ等の物量が増えているが、全体的には前年並みの輸送量となっている。ドライバー不足と2024年の労働時間制限問題もあって、協力会社の輸送運賃も高く、利益は薄くなっている。
	□	金融業（営業担当）	取引先の様子	・関税関係や経営方針の変更に対応するため、各種協議等の場面が多くなっている。
	□	社会保険労務士	取引先の様子	・組合がない規模の中小企業の賃上げは2%上があれば良い方なので、地方の個人消費は厳しい。
	▲	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は前年実績をクリアできない状況が続いている。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・先行きの不透明感が強まり、多くの取引先から明確な計画が出てこない状況である。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社は輸出はしていないが、米国の関税政策で景気が悪くなったら、売上が少なくなるのではないかと警戒して、多少、発注を加減している。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中国向けの製品受注が減少している。
	▲	広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・飲食店、特に、居酒屋やラーメン店等の閉店が目立っている。
	▲	経営コンサルタント	それ以外	・米国の関税政策の行方が不透明であるため、中小、下請企業の見通しが立たない。新規顧客の開拓やOB顧客への再営業に注力し始めているが、十分な結果を出すまでには至らない。花見シーズンで人出はそこそこあり、多少個人消費があったので、中小商店等に、僅かながら好影響があったとみられる。

	×	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社は4月決算だが、単月の売上が今期最低となり、過去10年の4月売上と比較しても、最低金額となっている。景気は悪くなっているとしか言いようがない。
	×	不動産業（管理担当）	それ以外	・年度末決算の速報では、売上は横ばいで営業利益が半減している。各種資材の値上げによる利益の圧迫と人件費増加で価格転嫁が依然として進まない状況である。
雇用 関連 (北関東)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・シニア層の求職者数は増加傾向だが、企業側の求める人材とのギャップは解消されていない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で増減を繰り返している。
	▲	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・新年度を迎えて、新旧交代もあり、かなりの採用があった。ただし、賃金格差はあり、景気が厳しいのかと思わせる採用内容もみられ、働き方も変わってきている。物価高が1番影響はあるが、米不足でもあり生活に苦しさうかがえる。ファーストフード等の購買力も、良いところとやや悪いところが見受けられる。外国人に期待している。
	▲	人材派遣会社（管理担当）	求人数の動き	・安定した正社員への応募希望が多く、派遣求人数が減少したため、やや悪くなっている。
	▲	学校〔専門学校〕（副校長）	それ以外	・物価上昇と外的要因により、景気は減退している。
	×	*	*	*